

談炉



'99年 冬号 (第4号)

編集・発行  
山の家運営委員会

迫 研 山 の 家 機 関 紙

1999年1月吉日



私が会長に就任して早2年が過ぎようとしています。私がやろうと思っていた事は、機関紙を発行し、来る15周年に向けて会員の士気を高め、15周年祭を成功させる事でした。それが結果的に今戻つぼみとなっている、会員の山の家に対する愛情を取り戻し、利用してもらおうきっかけになると考えていました。

97年には1階の床を少し上げ、コルクタイルを貼り女性に汚いから使わないといわれぬように清潔感を出し、冬でも使えるようになりました。その他軒天を何枚か張り替え、ポイラーを新しいものに交換したら、約50万円ほどかかってしまいました。困った事に、98年に工事しようとした外構のお金は無くなり、そこで仕方なく会員の皆さんに、寄付と年会費の未納金の回収を呼びかけ、何とか自分達で工事すればできるだろう金額が集まりました。(かかった費用は別資料をご覧ください)

当初アドバルーンをぶち上げた張本人であるが、正直どれだけの事ができるのか半信半疑でした。しかし自ら動かなくして何もできないと覚悟し、15周年に向けて進めてきたのですが、これら工事が完成した時は、思った以上に完成度が高く、しかも予算内にすべての事が行えたという満足感がありました。反時計廻りに仕掛けたアプローチを歩くとう壇舎の段々がより強調され新しい山の家が発見に出会ったように感じられます。玄関前のデッキは、今までのほこりを押さえる役目だけでなく、熊笹の海に浮いているようです。バーベキューコーナーと共に夏には雨の中でもデッキに出て食事ができ、家族での利用の巾が広がりました。祭りは人が集まらず考えていたイベントはできませんでしたが、やるだけの事はやったと自負しています。

しかし、最初に会長に就任した時から課題にしている会員の利用を増やす事には、結びついていません。運営委員会では、何とか利用してもらおうと、機関紙やこのような工事を行いがんばっています。今世の中は不況のまっただ中、時間と心に余裕のある人はいないかも知れません。しかし情熱はどんな時代にも関係なく沸き上がるものじゃないでしょうか。皆さんが愛情を注いだ山の家が15年経ち、成長しました。その姿を一度見に来て下さい。利用してください。

建築に愛情を失いかけている人は、ここに来て山の家に関わり掛けてみて下さい。もっと山の家と語っていただきたい。お待ちしております。

#### 工事实費会計報告

アプローチ	照明器具4灯(配線込み)25,569円。ステンレス看板30,000円。
デッキ	まくら木(新品25本中古10本)138,627円
駐車場	砕石(8立米)65,000円。トラックレンタル・交通費30,820円
バーベキューコーナー	(レンガ150個)21,075円
工事参加者交通費	(11人)49,010円。食費(2日間)35,774円
雑費	15,736円
総合計	<b>41万1611円でした。</b>

## 迫研山の家・15周年記念を出発と考える 南迫哲也

右回りに上がる渦巻きのような空間、これは人類の歴史上そんなに数あるものではない、ライトがグッゲンハイム美術館を考えたのは1943年、Zigguratと命名した、完成は1956年、13年かかっている。1967年西村健太郎君が最初の卒論研究生として南迫研究生になり、「迫研山の家を造りたい」と言い、1970年に構想しだしてから丁度13年後の1983年7月、「有壇舎」という名の南迫研究室山の家が完成したのであった。南迫哲也、西村健太郎、正木史朗、石尾健、松井弘孝、佐野(現・後藤)喜代次、菅原宏之、藤田幸一、高橋昭彦、松木江平、秋葉良一(構造・宮澤健二、小林久雄)が1978年10月から設計と資金の調達を開始、苦節5年完成したのであった。延べ床面積:100.34㎡、総工事費:1,200万円。

暖炉の構成(R.Cのスラブ下に鋼製の炉口、上に鋼製パイプの煙突をのせる)や台所の排気フード(調理人の頭越しに開いた構成)、脚なしテーブル(天板を壁と柱に取りつけ)角材階段(コンクリートに埋め込み)、底無し斜め下足入れ(泥汚れで悪評)、軒先氷柱対策、食卓用3連照明、框を見せないつまりガラスだけを見せる建具(竖は柱の陰、上は鴨居を無目より上げ、下は敷居を下げて)など未だかつて無い工夫が随所にある。そして更にこの15年間、迫研研究生や卒研究生によっていろいろの手が加えられた、卒論で「暖炉」を研究した今君は、暖炉の現代一流作家、遠藤楽氏に師事を乞い袖壁と背面に耐火レンガを自分で積み上げ暖炉の火がトロリトロリと良い具合に暖かく燃えるようにした、また一階床の冷え込み対策としてコルクタイル貼り、そして今年、中澤克秀、高橋昭彦、玉田貴紀、熊谷幸浩、及川清弘、三浦伸夫、大竹次郎、小湊一敬、等によって駐車場と新たなアプローチから玄関前ポーチがバーベキュー・コーナーと共に造成された、特に枕木を利用した階段の段鼻やポーチの床が今様のウッドデッキになり、その誘導灯への枕木の縦使いの妙はなかなかのものである、この工事に参加した大学院の小原久利、卒論生の古宮秀昭、田口雅紀の三名は先輩達の設計施工の手際よさに感銘した模様である。

今後この右回りの“とぐろ”に頭と尻尾をつけたいと私は考えている、頭とは、最上段の押し入れから屋根の上に這い上がる小造りなガラスドームの空間を付けることである、遠い山並みの景色や流星を眺めたいのと、太陽光線の当たる場所が欲しいからである「押し入れの奥の布団干し」なんて洒落たスペース…、そしてシッポとは、押し入れの下のコンクリートの壁に“にじり口”を付けそこから出ずこし離れた敷地周辺に図書室をめぐらし、正木文庫に南迫文庫を加え、既に樋口先生からいただいているライトの写真パネルを飾り、「ライト記念館」と命名、末長く真の建築を極める錬磨道場として残したいと考えている、いずれ町長にもお会いしてこの構想を練ってみたいものではある。そしていまや海の家もつくりたいと思いはじめている、新たな出発を…!



### 98年度総会について

毎年総会を大学で行ってまいりましたが、年末の時期でも有り、出席が年々減りつづけて、総会の意味を成さなくなってきましたので、会員の皆様の意見を直接聞くために、議題をアンケート形式にして答えていただき、総会へ参加をしてもらう方法を取りました。

同封のがき、(98年度総会返信はがき)に議題をアンケート形式でお答え下さい。

#### 議題 1. 年会費について

- A. 年会費は会員の義務である。
- B. 山の家を利用する人だけ払えば良い。
- C. 年会費を払う価値があるなら払う。

#### 議題 2. 年会費をその年度中に納入した人の特典として宿泊券(5000円分相当)を1泊配布する

- A. 賛成 B. 反対 C. どちらでも良い

#### 議題 3. 機関紙の効果を考える。

- A. 会員の様子が分かって良い。
- B. 有ってもなくても今までと同じ。
- C. 切手代がもったいないから要らない。

#### 議題 4. どんな意見でもよいので、

山を家の運営にご意見下さい。

1998年利用者状況(延べ76人、19泊)

